

令和6年度事業報告

公益社団法人日本馬術連盟（以下「日馬連」）は、令和6年3月7日開催の令和5年度第7回定例理事会において承認された令和6年度の事業計画及び収支予算に基づき、以下の事業を実施した。なお一部については、期中に補正を行った。

令和6年度の特記事項として、第33回オリンピック競技大会（2024/パリ）（以下「パリオリンピック」）がフランスで7月26日から8月11日まで（馬術競技は7月27日から8月6日まで）開催された。

日本からは総合馬術に大岩義明選手と MGH グラフトンストリート、北島隆三選手とセカティンカ JRA、戸本一真選手とヴィンシーJRA、田中利幸選手とジェファーソン JRA、障害馬術に佐藤英賢選手とコンタルゴブルー、杉谷泰造選手とクインシー、ハーゼ柴山崇選手とカラメル M&M がそれぞれ出場した。日本は総合馬術（団体）で1932年ロサンゼルスオリンピックでの西竹一中尉の障害馬術個人金メダル以来92年ぶりのメダル獲得（銅メダル）となった。個人では総合馬術で戸本選手が5位、大岩選手が7位であった。

各事業については、以下のとおり

1. 馬術の普及・振興

（1）馬術に関する情報システムの運営

- ① ウェブサイト及び SNS を運営し、広く一般に各種情報を公開して迅速に広報活動を行った。
- ② 会員とのコミュニケーション手段として日馬連公式サイト・Facebook 等を活用するとともに、月刊機関誌『馬術情報』とリンクし、広報活動の充実を図った。
- ③ 利用者の利便性と業務の円滑化を向上させるべく「日馬連情報システム」を活用し、会員情報、乗馬情報、主催・公認大会の情報等を管理した。

（2）機関誌発行

- ① 紙媒体の特性を活かして情報を的確に伝達し、馬術の振興及び各種記録の保存に資するため『馬術情報』を発行した。
〔発行部数 87,600部（7,300部×12か月）、対前年度比100.0%〕
- ② 『馬術情報』を日馬連会員、関係団体、マスコミ各社に配布するとともに、一般購読者に販売した。

- (3) 馬術関係資料の作成・頒布
各種規程集及び日馬連で扱う馬術競技の紹介・ルール解説等の資料を作成し、頒布した。
- (4) マーケティング活動
- ① 日馬連スポンサーとして、前年度に引き続きオフィシャルサポーター2社（日本航空株式会社・エルメスジャパン株式会社）が就任した。
 - ② JOC×NF ジョイントマーケティングを実施、パリオリンピック日本代表について「TEAM JAPAN」として発信する等により協賛を得ることができた。さらに NF オプションプログラムによる ENEOS 株式会社からの協賛を活用、「U30馬場馬術選手権」「U30インターメディアイトIクラス馬場馬術競技」及び「第2回チャレンジ・ドレッサージュ2024」大会を開催、馬術競技人口の拡大及び馬術競技の普及を図った。
 - ③ パートナーシッププログラムメニューを適切に実施し、それ以外のスポンサーメリットやエルメスオリジナル・スポンサーメニューも実施した。
 - ④ 馬術振興のための一般寄付として23,705,000円の寄付金を受け入れた。
- (5) 主催競技会の放映・動画配信
- ① NHK における主催競技会のテレビ放映実施に協力した（Eテレ1回）。
 - ② 主催競技会等のインターネットライブ配信を18回（他団体主催8回を含む）実施し、多くの人々に馬術の素晴らしさを伝達した。
- (6) 各種表彰
- ① パリオリンピックで団体銅メダルを獲得した総合馬術競技出場選手4名及び出場馬所有者に名誉総裁表彰を、同大会障害馬術競技出場選手4名及び出場馬所有者に特別表彰をそれぞれ行った。
 - ② 永年に亘り馬術界に功績のあった7名2頭（功労者4名、地域功労者3名）を表彰した。また、優秀な成績を収めた人馬4名8頭を表彰した。
 - ③ 競技馬の資質向上のための奨励策として、優秀乗馬飼育奨励金を交付した。
 - ④ 競技馬の資源確保、調教技術向上のため内国産馬の活用振興を図り、その奨励策として内国産優秀乗馬飼育奨励金を交付した。
 - ⑤ 優秀な成績を収めた内国産馬の所有者・生産者を表彰した。
- (7) NF 活動（National Federation：国内を統括するスポーツ団体）の推進
- ① （公財）日本オリンピック委員会及び（公財）日本スポーツ協会の会議等に積極的に参加した（19回）。
 - ② 国際馬術連盟（FEI）及びアジア馬術連盟（AEF）の活動に参画し（国際会議等4回）、日本馬術界の国際的地位向上に努めた。
 - ③ （公財）日本オリンピック委員会主催の「IF 等役員ポスト獲得支援:AB タイプ・IF 等事務局スタッフ派遣等」説明会に参加、支援金を活用して AEF 臨時

総会及びFEI総会への役員等派遣を行った。

(8) 馬術基盤の維持拡大

- ① 馬術振興の一翼を担う組成団体に対し、その加盟する団体が所有する馬について、飼育費助成及び優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟及び組成団体の事業費・事務費の助成を行った。
- ② 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。
- ③ 国内の乗用馬生産団体に対して必要な助言を行うとともに、内国産馬限定競技を主催大会に組み入れ、内国産馬活用促進のための事業を行った（第76回全日本障害馬術大会2024 Part II 内国産障害飛越競技・第76回全日本馬場馬術大会2024 Part II 内国産選手権、内国産第5課目、内国産第4課目、内国産第3課目・第54回全日本総合馬術大会2024内国産総合馬術選手権競技）。
- ④ JRA 馬事公苑の整備工事に伴い、その影響を受けることとなった馬術競技会の主催者を支援するため「馬術競技普及振興等推進事業」を3主催者4競技会に対して実施した（JRA 特別振興資金事業）。

(9) ガバナンスの向上

- ① スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉適合性審査の遵守状況に関する自己説明を日馬連公式サイトに掲出するとともに、掲出について（公財）日本スポーツ協会及び（公財）日本オリンピック委員会に報告した。また、ガバナンスに関する理解を深めるべくJOCNF総合支援センター主催の研修会（4回）に参加した。
- ② 馬のウェルフェアの推進及び競技者のドーピング防止に関する知識習得のためのeラーニングコンテンツ「ドーピング防止eラーニングについて（選手必見）」を大会特設サイト等に掲載し、関係者の受講を勧奨した。
- ③ 選手及び関係者のインテグリティ（誠実さ、真摯さ、高潔さ）に関する意識向上促進のため、JOCセミナー等に6回88名が参加した。

2. 会員と乗馬の登録

(1) 会員登録

選手、指導者及び団体の活動をサポートするため、会員（6,713：個人6,042、県馬連所属団体418、組成団体所属団体253）の登録を行った。

〔前年度 会員6,830：個人6,165、県馬連所属団体416、組成団体所属団体249〕

(2) 乗馬登録

乗馬の個体情報（識別、成績、所有者）を登録管理して、競技の公正確保と防疫体制の確立を図り、乗馬（3,858）の登録を行った。

〔前年度 3,910〕

(3) FEI 登録事務

FEI 公認競技会に参加する人馬（選手98名、馬匹124頭）及び競技役員の FEI 登録事務を行った。

〔前年度 選手97名、馬匹125頭〕

(4) 「日馬連情報システム」の運用

「日馬連情報システム」を運用し、迅速かつ正確な登録事務を行った。

3. 競技会規程の制定及び各種資格の認定

(1) 競技会規程の制定・整備

日馬連の各種規程の制定及び改廃を行った。また FEI 各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、FEI 競技規程の国内適用を図った。

(2) 競技役員資格

- ① 競技役員の資格認定・更新・昇格及び技術向上のため講習会・認定試験を実施（8回）するとともに都道府県馬術連盟等が開催する講習会を公認（14回）した。また、コースデザイナー講習会等を実施（6回）するとともにスタッフ研修会を実施（2回）した。
- ② 講習会の内容の統一のため、講師の研修会を開催（1回）した。
- ③ 国際競技役員養成のための FEI 公認講習会を開催（5回）及び開催支援（1回）した。また、海外で開催される講習会に参加する競技役員の支援を行った。さらに、馬場馬術審判員の技術の向上を図るべく Web を利用した海外講師によるワークショップを開催（1回）した。
- ④ 馬場馬術の国際審判員を養成するため、海外で実施された講習会に派遣（7回）するとともに、Web を利用してセミナー等に参加（11回）した（JRA 特別振興資金事業）。

(3) 指導者資格

① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者

（公財）日本スポーツ協会が制定する公認スポーツ指導者制度に基づく統一カリキュラムに則り、少年団・高校・大学馬術部又は馬術クラブにおいて馬術競技の基礎的実技指導にあたる指導者を養成するコーチ1及び競技者養成プログラムに基づき都道府県内レベルで競技者の発掘・育成にあたり、国民スポーツ大会馬術競技会の監督・コーチとして強化指導を行うコーチ3の専門科目講習会を行った（各1回）。

② 日本馬術連盟認定指導員

馬術指導者の資格認定・更新及び専門知識習得と資質向上のため、日馬連独自のカリキュラムに則って講習を行い、検定試験を実施して資格を付与した（1回）。また、指導者資格・更新復活講習会を開催（1回）した。

(4) 選手の資格認定

騎乗者資格について、主催・公認競技会及び国際競技会参加のための騎乗者の技術レベルを判定し、認定・登録を行った（A級32名、B級347名、EC級4名、C級109名）。また、都道府県馬術連盟等が開催する騎乗者資格認定のための審査会（B級26回、C級36回）を規程に基づいて公認した。

(5) 競技会の公認

会員が主催する競技会を日馬連が公認し、併せて日馬連が指名する者が審判長を担当することにより、競技の安全と公正を推進した（障害114、馬場78、総合6、エンデュランス15：合計213）。

4. 選手の強化

(1) 選手強化対策

- ① 競技力強化のため、海外トレーニング拠点（障害・総合）及び海外コーチングチームを設置した（JRA 特別振興資金事業）。
- ② 優良競技馬による競技活動支援を目的に障害8頭、総合11頭を国内外でオリンピック・世界選手権等を目指している選手に引き続き貸与した（JRA 特別振興資金事業）。
- ③ 騎乗・調教技術の向上を図るため、強化訓練・合宿等を国内において5回（障害1回、馬場2回、総合2回）、海外において2回（馬場1回、総合1回）実施した。
- ④ 優秀な成績を挙げた選手をナショナルチームメンバー及びプログレスチームメンバーに、また、次世代の選手をプログレスチームジュニアメンバーにそれぞれ認定した。

障害：ナショナルチーム5人馬・プログレスチーム23名・プログレスチームジュニア20名

馬場：ナショナルチーム2人馬・プログレスチーム22名・プログレスチームジュニア17名

総合：ナショナルチーム5人馬・プログレスチーム12名・プログレスチームジュニア19名

(2) ジュニア育成

国際レベルの選手を育成するため、総合馬術プログレスチームについては国内強化合宿（3回）、海外強化合宿（2回）を行った。障害馬術プログレスチーム及びプログレスチームジュニアチームについては国内強化合宿（1回）を行ったが、海外の強化合宿等は派遣先や日程の選定が難航したため実施できなかった。

(3) ナショナルトレーニングセンター（以下「NTC」）の活用

- ① NTC 中核拠点施設馬術競技強化拠点としてスポーツ庁の指定を受けた御殿場市馬術・スポーツセンターを競技力強化に活用した（18回69日）。
- ② 医科学サポートに関わるデータ収集として、「馬術における騎乗者と馬の動

作解析」を実施した。

5. 競技会の開催

(1) 競技会の開催

馬術競技を志す全ての選手の目標として、各種目・各レベルの年度チャンピオンを決定する全日本馬術大会を開催した。

日程	大会名	開催場所
4月11～13日	CCI2*-S /CCI1*-Intro Miki 2024	三木ホースランドパーク
5月23～26日	第45回全日本ヤング総合馬術大会2024・CCI2*-L/CCI1*-Intro Yamanashi	山梨県馬術競技場
6月7～9日	第76回全日本馬場馬術大会2024 Part II CDI 3*/CDI 1* Gotemba	御殿場市馬術・スポーツセンター
6月29～30日	第2回チャレンジ・ドレッシージュ大会	JRA 馬事公苑
8月22～25日	第48回全日本ジュニア障害馬術大会2024	御殿場市馬術・スポーツセンター
8月29～9月1日	第45回全日本ジュニア総合馬術大会2024・CCI2*-S /CCI1*-Intro Yamanashi	山梨県馬術競技場
9月20～22日	第76回全日本障害馬術大会2024 Part II	三木ホースランドパーク
9月28～29日	第41回全日本ジュニア馬場馬術大会2024	JRA 馬事公苑
10月5～6日	第25回全日本エンデュランス馬術大会2024	北海道河東郡鹿追町ライディングパークを発着とする特設コース
11月8～10日	第76回全日本馬場馬術大会2024 Part I	御殿場市馬術・スポーツセンター
11月14～17日	第54回全日本総合馬術大会2024 CCI3*-S /CCI1*-Intro Miki	三木ホースランドパーク
11月21～24日	第76回全日本障害馬術大会2024 Part I	JRA 馬事公苑
11月30～12月1日	第52回日韓親善馬術大会	御殿場市馬術・スポーツセンター

また、全国で開催される公認競技会を全日本大会の予選とすることにより全国規模の馬術の振興を図った。

(2) 競技会の共催

全国レベルでの技能向上の機会である国民スポーツ大会馬術競技(佐賀県)を(公財)日本スポーツ協会及び文部科学省他の団体とともに兵庫県三木市三木ホースランドパークにて主催した。

また、前年度に引き続き国民スポーツ大会における馬術競技の毎年実施競技への復帰を目指し都道府県馬術連盟等と意見交換を行った。

(3) FEI 公認競技会

- ① 主要国際大会出場資格取得及び国際レベルの選手層の拡大を目的として、FEI

公認競技会を5大会実施した。

- ② 会員団体が主催する FEI 公認競技会8大会（障害7、馬場1）の開催を支援した。

(4) ドーピングの防止

- ① 主催競技会及び FEI 公認競技会において馬のドーピング検査を実施（10回）した。
- ② （公財）日本アンチ・ドーピング機構と協力して検査を実施した。また、指導者養成講習会内でドーピング防止に関する e ラーニングを実施（2回）し、競技者のドーピング防止に関する知識を広めた。

6. 国際競技会への派遣・支援

(1) パリオリンピック

- ① 障害馬術は、団体戦に3人馬、個人戦に3人馬が出場し、その内ハーゼ柴山崇選手が決勝に進出した。
 - ② 総合馬術は、団体戦に途中交代を含め計4人馬が出場し、銅メダルを獲得した。個人戦では戸本一真選手が5位に、大岩義明選手が7位にそれぞれ入賞した。
- (2) その他の国際競技大会等へ選手・役員を派遣（障害7・総合4）し競技力向上に努めるとともに、海外の情報収集を図り、併せて国際交流・親善を深めた。
- (3) 海外の FEI 公認競技会に参加する日本選手（障害5名・馬場3名・総合6名・エンデュランス4名）を支援した。
- (4) 2025年 CSI-W ワールドカップファイナルの出場権を得た増山誠倫選手に馬輸送補助を行った。
- (5) 2016年以来8年ぶりに第52回日韓馬術大会（障害馬術及び馬場馬術）を11月29日から12月1日まで開催した。

7. 第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）の準備

- (1) 日馬連役員4名が第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）組織委員会の役職にそれぞれ委嘱された。
- (2) 第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）の準備にあたり、定例ミーティング（9回）等に出席して組織委員会の運営に協力した。

(資料4) 会員と乗馬の登録 (2 関連)

(1) 令和6年度会員登録数

区 分	R6. 3. 31 (A)	入会	退会	R7. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
① 正会員	54	0	0	54	0	100.00
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00
ロ. 組成団体	4	0	0	4	0	100.00
ハ. 学識経験者	3	0	0	3	0	100.00
② 登録会員	6,830	475	592	6,713	△ 117	98.29
イ. 個人	6,165	447	570	6,042	△ 123	98.00
ロ. 県馬連に所属する団体	416	10	8	418	2	100.48
ハ. 組成団体に所属する団体	249	18	14	253	4	101.61
全日本学生馬術連盟	80	1	0	81	1	101.25
全日本高等学校馬術連盟	82	13	9	86	4	104.88
日本乗馬少年団連盟	55	2	2	55	0	100.00
日本社会人団体馬術連盟	32	2	3	31	△ 1	96.88
③ 賛助会員	2	0	0	2	0	100.00

(2) 令和6年度乗馬登録数

区 分	R6. 3. 31 (A)	登録	抹消	R7. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
乗馬登録数	3,910	443	497	3,856	△ 54	98.62

(3) 令和6年度FEI登録数

区 分	選手	馬匹	トレーナー
障害馬術	48	42	
馬場馬術	23	36	
総合馬術	17	30	
エンデュランス	2	0	0
軽乗	0	0	
パラ馬術	8	16	
合 計	98	124	0

(4) 令和6年度FEIパスポート登録数

FEIパスポート (リコグニションカードを含む) 交付・更新・変更数

新規交付	10	(うちマイクロチップ埋込み 0件)
更 新	20	
所有者変更	13	
馬名変更	0	
再発行	3	